２　　身代わりになった鹿王　　　　　　　　　文法　用言②　変格活用の動詞

昔、国王、鹿野苑にして狩りをし給ひけるに、多くの鹿Ａ失せにけり。二の鹿王あり。おのおの五百の眷族の鹿あり。おほやけに申していはく、「狩りの度に多くの鹿失せぬ。願はくは御狩りをアとめられて、日次の鹿をイ奉らん」と申しければ、鹿王の申す旨にウまかせて、「日次の鹿を奉るべし」とて、狩りをとめられぬ。鹿王ら喜び、日次の鹿を奉るほどに、一つのＢはらめる鹿あり。鹿王に訴へていはく、「我今日の番に当たれり。エしかりと言へども、このはらめる子を生みては、今一日の鹿も出で来べし。今日の番に、他の鹿をＣさしかへてよ」と言ひければ、まことにさもオある事なれば、他の鹿をさしかふるに、誰も命は惜しき事なれば、「かはるべからず」と言ひければ、はらめる鹿を生ませんがために鹿王みづから日次にたつ。

【本文チェック】

①　ア〜オの動詞の、活用の行と種類・文中での活用形を（　）に書きなさい。

　ア（　　　　　　活用　　　形）　イ（　　　　　　活用　　　形）

ウ（　　　　　　活用　　　形）　エ（　　　　　　活用　　　形）

オ（　　　　　　活用　　　形）

②　Ａ～Ｃの動詞の基本形（終止形）を、〔　〕に書きなさい。

Ａ〔　　　　　〕　Ｂ〔　　　　　〕　Ｃ〔　　　　　〕

③傍線部を現代語訳し、〔　〕に書きなさい。

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

【語彙力 ✚】

問１　次の語句の意味について、空欄を埋めよ。＊〔数字〕はノート本冊での本文の行数を表す。

１　おほやけ〔２〕　 ①天皇・帝

　　　　　　　　　 　②（　　　　　　　）

２　奉る〔３〕 　　　①差し上げる・献上する

　　　　　　　　　　 ②お召しになる

　　　　　　　　　　　 ③乗りなさる

　　　　　　　　　 　④（　　　　　　　　）

　　　　　　　　　 　⑤（～奉る）～し申し上げる

問２　次の傍線部の意味として最も適当なものを選べ。

１　さもあることなれど、このおとどの定めによりて、小松の帝は位につかせ給へるなり。　 （大鏡）

ア　もっともな　　イ　めったにない

ウ　ありふれた　　エ　ふさわしい

（　　　）

２　しかりといへども、残して子孫のためとはなりぬ。 （日本永代蔵）

ア　そう言わないで　　イ　そうとは言うが

ウ　そうであるので　　エ　そうであるならば

（　　　）

【文法力 ✚】

問３　次の傍線部の動詞の活用の行と種類、文中での活用形を答えよ。

１　右大将藤原のといふ人、いまそがりけり。 （伊勢物語）

活用の行と種類（　　　　　　　　活用）　活用形（　　　　　　　　）

２　死なずやあると、見たまへ。 （竹取物語）

活用の行と種類（　　　　　　　　活用）　活用形（　　　　　　　　）

問４　次の（　）内の語を、適当な活用形にして答えよ。

１　何にかあらむ。雀の落として、（いぬ）物は。 （うつほ物語）

（　　　　　　　）

２　駿河の国にある山なむ、この都も近く、天も近く（はべり）。　（竹取物語）

（　　　　　　　）

３　飛鳥川に（あり）ねば、淵瀬さらに変はらざりけり。 （土佐日記）

（　　　　　　　）

問５　次の傍線部の動詞の読みを、ひらがなで答えよ。

１　後に迎へに来む。 （更級日記）

（　　　　　　　）

２　筑紫よりここまで来れどつともなし 　（伊勢物語）

（　　　　　　　）

３　あしひきの山より奥にもがな年の来まじきれにせむ　（金槐和歌集）

（　　　　　　　）

【探究】発展的に考えてみよう

問６　鹿王には自分が身代わりになる選択肢しかなかったのだろうか。自分が鹿王の立場ならどうするか、考えて書いてみよう。

〔

〕

【解答】

【本文チェック】

①　ア＝マ行下二段・未然　イ＝ラ行四段・未然　ウ＝サ行下二段・連用

　　エ＝ラ行変格・終止　　オ＝ラ行変格・連体

②　Ａ＝失す　Ｂ＝はらむ　Ｃ＝さしかふ

③　惜しいものであるので

問１　１＝朝廷　２＝召し上がる

問２　１＝ア　２＝イ

問３　１＝ラ行変格・連用形　２＝ナ行変格・未然形

問４　１＝いぬる　２＝はべる　３＝あら

問５　１＝こ　２＝くれ　３＝く

問６　観点　国王との約束を守ることを優先するのか、身ごもった鹿の命を守ることを優先するのか、他の鹿の命を守ることを優先するのか、さまざまな視点から考えるとよい。

【現代語訳】

問２　１　もっともなことであるが、このおとどの裁定によって、小松の帝（光孝天皇）はご即位なさった。

２　そうとは言うが、残しておけば子孫のためにはなるものだ。

問３　１　右大将藤原の常行という人が、いらっしゃった。

２　死なないでいるだろうかと、ご覧になってください。

問４　１　何であろうか。雀が落として、行くものは。

２　駿河の国にあるという山が、この京の都も近く、天の国も近うございます。

３　飛鳥川ではないから、淵も瀬もけっして変わらないことだ。

問５　１　のちに迎えに来よう。

２　筑紫からここ（＝京）までやって来るけれどお土産もない。

３　山より奥に家が欲しいものだ。年が訪れて来ないような隠れ家にしよう。